

あおやぎ

No.264
2016年1月



▲毎月開催のロビーコンサートより（2015年11月 出演者:こーる・ふるーら）

院長あいさつ ②

みんながわかる！床ずれケア ③
シリーズ2～床ずれの発生要因とは？～

緩和ケアセンター開設のお知らせ ④
～がん患者さん・ご家族の療養生活の質向上をめざして～

外来診療案内 ⑥

INFORMATION ⑥

県立中央病院の理念と方向性

〈理念〉

県民の健康と生命を支える安心と信頼の医療

- ・患者の権利と意思を尊重し、高度で良質、適正な患者中心の医療を提供します。
- ・医療従事者としての倫理綱領を守ります。
- ・最適ながん医療と生活習慣病対策を推進します。
- ・信頼される救急医療を提供します。
- ・地域医療、福祉との連携をします。
- ・将来を担う医療人の教育、育成を行います。
- ・公共性に配慮した健全な病院経営を目指します。



この広報誌“あおやぎ”には、主に医療と病院運営の課題を紹介してきましたが、本号では趣向を変えて“人物”につき書かせて頂きました。人物とは3代前の院長、横山紘一先生です。かつて診てもらった患者さんも大勢おられると思います。



院長 ● 後藤 敏和

“大きい先生、横山紘一先生”



横山紘一先生

横山紘一先生との出会いは、私が当院の研修医として医師としてのスタートを切った昭和51年（1976年）ですから、39年前のことになります。先生は30歳代後半、バレーボールの国体選手であっただけに、“大きい先生”だなあ、というのが最初の印象です。循環器内科は大友尚先生が親方で、横山先生は大番頭、その下に腎臓・透析担当の斉藤幹郎先生、新進鋭の若手医師として大道寺七兵衛、荒木隆夫、三浦民夫の3先生が活躍しておられました。

内科研修医は内科の各診療科をローテートしたのですが、循環器内科では、横山先生について指導を受けました。当時、ガラス製であった注射器の持ち方については“中指と薬指で外套の出っ張りをはさむと内筒が動かない”“イソジン棒を真ん中から外側に向かって消毒していく”“ロカール（局所麻酔）は、まず皮内に団子を作るようにするとそのあと痛くない”など基礎の基礎から手取り足取り指導を受けました。心臓カテーテル検査にもいつも入れて頂き、冠動脈造影、電気生理検査、何でもやらせて頂きました。

横山先生が当直の時には、一緒に当直して患者さんが来るのを待ち、先に自分なりの診たてをしてから先生をお呼びしていました。心カテ、不整脈・電気生理、高血圧、と何でもやられる先生でした。巷では「死んだ人を生き返らせる先生」と噂されておりました。病室で心室細動（死に至る最も重篤な不整脈）になった患者さんが、ICUから飛んで行った先生（金魚の糞のごとく私もついていきましたが）の蘇生術により救命され、退院後その患者さんが新聞に投稿したり、町内会長をされていたこともあって、あちこちで話を回ったことも噂を拡大した要因と思われました。

ある夜、心肺停止の患者さんが運ばれてきました。私を含む若い医師3人で心肺蘇生術を施行しましたが、回復しません。そこへ応援を要請された横山先生が駆けつけて来ました。お酒が入っていたのでしょうか、タクシーを呼んでも来なくて（当時はタクシーはなかなか来てくれませんでした）何と松原から息子さんの自転車飛ばして来たとのことでした。残念ながら患者さんは救命されませんでした。

当時研修医は半年経つと、外来も担当するようになりました。分からないことばかりで、カルテを持って外来に出ておられる先生方に聞いて回ってようやく勤めていました。ある日、横山先生が急に外来に出られなくなり、私が代理を勤めることとなりました。診察室の机にはざっと60冊ばかりのカルテが山積みになっていました。「ウー、これ一日で診るの？」私の問いに外来看護婦は「横山先生は毎週ですよ。先生も頑張ってる」とはっぱをかけられました。腹を据えて外来を始めましたが、心配は杞憂に終わりました。何故か山積みのカルテから、どんどんカルテが抜かれて行きます。“横山先生が外来に出られない”と知って、患者さんたちは次週以降に出直して来ることにしたのでした。薬だけ出してもらいたいとの希望で、処方箋だけ書かされた患者さんもたくさんおり、山積みのカルテはたちまち半分ほどになりました。ほっとした気持ちと、情けない気持ちと半々の複雑な気持ちでした。

研修医としての2年間が終わりに近づく頃には、“俺も循環器の医師になって、横山先生のように何でもやれて、患者さんから信頼される医者になりたいものだ”と思うようになっていました。

横山先生は、「大学に行って来い」と言ってくれました。紹介状を書いてもらい、数カ所の大学を見学し、結局女子医大に行くことにしました。横山先生は「帰ってくるんだったら、35歳まで帰ってこい」と言って送りだしてくれました。女子医大では1年間勉強させてもらい、その後東北大学第2内科に入局しました。計7年間大学にいましたが、盆暮れはご自宅にお邪魔して午前様までご馳走になって来ました。奥様にしてみれば迷惑な「弟子」であったに違いありませんが、いつも暖かく迎えて下さいました。

臨床上の業績を並べれば、HIS束心電図（注1）を東北で最初に記録、命名される前のブルガダ症候群（注2）につき学会で発表（今でもあの時に論文にしていれば、と残念がっておられます）、昭和60年に東北で初めて冠動脈インターベンションを導入（担当は荒木隆夫先生）され、日本心血管インターベンション学会、ウインターミーティングの学会長を勤められました。

先生は、平成11年から4年間、院長を勤められました。新病院に移る前後の最も大変な時期の院長です。院長になられたときの年賀状にこう書いてありました。「いい病院にしたい、力を貸してください」と。もったいない言葉です。私が副院長になったとき、先生からメールが来ました。「これからはお前の発する言葉は、後藤敏和、個人のもではなく、県立中央病院の副院長の発言として捉えられるから、自重するように」と。院長になった時には、こう言われました。「職員一人一人を家族と違って仕事しなさい」と。

医者は“卒業して2、3年の間にどんな医師に出会うかで、おおよその道が決まる”と言われます。私の場合、横山紘一先生との邂逅により、その後の医師としての道が方向づけられました。そして今でも自分のことを気にかけて下さることを有難いと思うのです。出会いから39年経った今でも、横山先生は私にとって“大きい先生”なのです。

注1：足の静脈から心臓の中に電極を入れて、心房から心室に電気を伝えているHIS束の電氣的活動を記録する検査。

注2：特徴ある心電図所見を呈し、不整脈により突然死を来すことがある病態。病名は、最初に論文にして報告した医師の名に由来する。

みんながわかる！床ずれケア

シリーズ2～床ずれの発生要因とは？～

褥瘡対策委員会

シリーズ1は～床ずれってなに？～という題で、床ずれについて好発部位や皮膚の観察ポイント、観察するタイミングについてお話させていただきました。是非参考にしてください。今回は、なぜ床ずれはできるのか具体的に発生の要因について掘り下げていきたいと思ひます。

●床ずれはどうしてできるのでしょうか？

床ずれの原因である地球の重力は、目に見えずしかも24時間休むことなく私たちの身体に加わり続けます。「昨日まで元気に歩いていた人（特にお年寄りの方）が、発熱して一晩寝込んだら床ずれが出来てしまった」というのはよく聞く事実です。では床ずれはどうしてできるのでしょうか？

**床ずれは骨の突出した部分などに
圧力、ずれ、摩擦などの外力が
加わって発生します。**



●さまざまな外力「圧力」「ずれ」「摩擦」とは？



圧力が加わるとずれや摩擦などの力が発生しやすくなります。（長時間同じ姿勢）



日常ケアでずれが生じやすい場面

- ベッドの背上げ時や仰臥位に戻す時
- 体位変換や移動時など（オムツ交換時も含む）
- 車いす長時間座位による前ずれなどの姿勢の崩れ

これらを予防するためには、早期の床ずれ対策が大切です！！

では具体的にどの様に予防を行ったらよいのか疑問になりますよね？次回は、実際の予防策について触れていきたいと思ひます。

県立中央病院

緩和ケアセンター開設のお知らせ

～がん患者さん・ご家族の療養生活の質向上をめざして～

ごあいさつ

緩和ケアセンター長 ● 福島 紀 雅

平成24年6月に閣議決定された2期目の「がん対策推進基本計画」において、重点的に取り組むべき4つの課題の一つとして、「がんと診断された時からの緩和ケアの推進」が挙げられました。これに基づき、都道府県がん診療連携拠点病院に「緩和ケアセンター」の整備が義務づけられました。緩和ケアセンターは、「緩和ケアチーム」、「緩和ケア外来」、「緩和ケア病棟」等を統括し、全てのがん患者やその家族に対し、診断時からより迅速かつ適切な緩和ケアを切れ目なく提供することを目的としています。また緩和ケアセンターには、地域の病院や在宅療養支援診療所と協力し、在宅医療や介護サービスでも適切な緩和ケアを受けられるよう、地域の緩和ケア提供体制を構築する責務もあります。今後の緩和ケアセンターの運営に、皆様のご理解、ご協力をよろしくお願い致します。



はじめに

ジェネラルマネージャー ● 相馬 由美

当院では、がんと診断された患者さんに対し様々な場面で迅速に対応するために、緩和ケア病棟や緩和ケアチーム、緩和医療科外来等を設置し専門的な緩和医療の質の向上と提供体制整備を行ってきました。当院が、都道府県がん診療連携拠点病院としての役割を発揮するために、平成28年1月に緩和ケアセンターを開設することになりました。同センターを中心にさらなる診療機能強化に向けた改善を進めてまいります。



皆さんは「緩和ケア」という言葉に、どのようなイメージを持っていますか？「がん治療ができなくなった方への医療」「がん終末期に受けるもの」と思っている方も、まだまだ多いようです。がん患者さんは、がん自体の症状のほかに、痛み、倦怠感などの様々な身体症状や、

落ち込み・悲しみなどの精神的なつらさを経験します。「緩和ケア」は、がんと診断された時から行う、身体的・精神的・社会的なつらさを和らげるためのケアです。



緩和ケアセンターは、このような取り組みを行っています

●外来患者さんに対しては

- ①外来通院中の患者さんの「からだや気持ちのつらさに関する問診票」を活用し、より多くの患者さんにより早く緩和ケアを提供できるようにします。
- ②がん看護外来…月曜日から金曜日【午前】(当院通院中の方を対象としています。主治医または看護師にご相談ください)
- ③専門外来での対応を行っています。
緩和医療科外来…月曜日【午前・午後】 / 木曜日・金曜日【午後】
(予約制となっています、主治医の紹介状が必要です)

●入院の患者さんに対しては

- ①入院中の患者さんの身体的・精神的・社会的つらさを「からだや気持ちのつらさに関する問診票」を活用し、ケアの提供を円滑に行います。
- ②がん治療と並行した、より早期から質の高い緩和医療を提供します。
- ③緩和ケアチームへのアクセスを改善し、誰からでも依頼できる体制確保に努めます。
- ④「家に帰りたい」「慣れ親しんだ家で、地元で過ごしたい」という思いを支え、地域の医師、訪問看護ステーション・ケアマネージャー・調剤薬局等のスタッフと連携しチームでサポートします。

●地域の医療機関の方々へは

- ①緩和ケアに関する情報の集約とわかりやすい広報に努めます。
- ②在宅医療機関との情報共有・診療連携を強化し、必要時に緊急緩和ケア病床への入院を調整します。



このポスターを見かけたら問診票を手にとってください

緩和ケアセンターからのメッセージ



「緩和ケア」は、がんの治療が終わった時から行うものではありません。からだや気持ちのつらさを早期から和らげることで、がん治療を充実させる大切なケアです。「緩和ケア」について考えたくない時は、考えなくてもかまいません。人間は、体力や気力が減ると、考えることができなくなります。そんな時は、じっとしてエネルギーを蓄える時間が必要です。また、一人で抱え込まず、周囲の医療スタッフやご家族に相談ください。緩和ケアセンターのスタッフは、患者さんの悩みや不安について、一緒に考え、納得できる選択をするために支援していきたいと思っています。

緩和ケアセンターの場所



お問い合わせ / 代表023(685)2626
緩和ケアセンター

外来診療案内

この病院で初めて診察を受ける時は

総合受付（初来院受付）に診察申込書と問診票及び紹介状（紹介状をお持ちの方）を提出のうえ、受付してください。なお、総合窓口受付開始時間までは番号札をとってお待ち下さい。

再来の時は

予約の有無に関わらず、**再来受付機**で受付してください。受付票と診察券を受け取り、各科外来ブロック等にお越しください。（再来受付機は、午前7時30分からご利用になれます。）

各診療科を初めて受診する時は

総合受付（再診受付）に所定の問診票を提出のうえ、受付してください。

診察券をお持ちでない方は

総合案内又は、再診受付に申し出てください。診察券は**全科共通**で、**永久に使用**しますので大切に保管してください。

保険証は・・・

診察の都度、総合受付（再診受付）又は、各科ブロック受付に**必ずご提示**ください。住所・電話番号が変わった時は、必ず申し出てください。**保険証のご提示がないと全額自己負担になります。**

初来院受付時間

午前8:00～11:30

■ただし、眼科の水・木曜日の受付は、11:00まで
泌尿器科の火曜日の受付は、10:00まで

ブロック	診療科	診療曜日
A	内科	月火水木金
	循環器内科	月火水木金
	消化器内科	月火水木金
	感染症内科	第2・4木曜日のみ
B	整形外科	月火水木※
	眼科	月火水木金
	歯科口腔外科	月火水木金
C	脳神経外科	月火水木金
	泌尿器科	月火水木金
	心療内科	月火水木金
D	神経内科	月火水木金
	産婦人科	月火水木金
	耳鼻咽喉科	月火水木金
E	小児科	月火水木金
	小児外科	火(午後)・金(午後)
	皮膚科	月火水木金
F	形成外科	※火水木※
	外科	月火水木金
	呼吸器外科	※火水※金
	乳腺外科	月火水木金
	心臓血管外科	※火水※金
	麻酔科・ペインクリニック	月※水木※
緩和ケア医療科	月※※木金	
放射線科	放射線科	月火水※金

※は休診日です。受付しておりませんのでご注意ください。
心療内科は、当分の間新患の方の診察をお受けすることは出来ません。

外来診察に係る再来患者さんの電話予約及び予約変更については、医療相談支援センターで受け付けております。

TEL 023(685)2620 (13時～16時)

「かかりつけの先生」からのFAX予約も受け付けております。待ち時間も少なくてすみませので「かかりつけの先生」にご相談ください。

FAX 023(685)2606 (平日 8時30分～18時
土曜 8時30分～14時30分)

山形県立中央病院

INFORMATION ●お知らせ

冬期間における駐車場の除雪作業について

当院では早朝の積雪状況により駐車場の除雪作業を行います。除雪作業により生じた雪は、A～E駐車場は駐車場東側一帯に堆雪します（右図参照）。夏期間より狭くなってしまいご不便をおかけしますが、細心の注意を払い安全にご利用くださるようお願いいたします。

もし、駐車に不安のある方は、近くの係員が誘導いたしますので声をお掛けください。

積雪・凍結により足元が大変滑りやすくなっておりますので、お気をつけてお越しください。

